武家嚴制録續篇

九　自七至

ワ 3
6534
13

門 7 3
號 6534
卷 13

昭和十四年
一月十九日購求

内閣文庫

武家叢制系譜巻之七

享保六辛丑年分正月

来ル十日大紋ノ列ニ為上野ニ清水徳川家
作法ニ付真刻ノ列ニ勤ル成ル者ハ俄ニ書付
ノ場ニ出ル日ニ付私宅ニ下ル者

一 清水徳川筋ニ又大ニ番頭清水門番ニ出ル者ハ
列ニ成清水勤ニ非ル者ニ方ニ表ノ列ニ勤ル者ハ
下知ニ付ル者ハ下ル者

一 清水徳川筋ニ御ノ列ニ勤ル者
一 列ニ勤ル者ハ下ル者

出来ハ共私宅ニ早速ハ引一ツ仕候ハヽ

正月三日

昨十日ヨリ三ツ　市佛殿ニ於テ　法華経ヲ大数
百番宛ヲ百枚ハ行列ハ無ノ集ハ供物し刻限
ヨリ始メテ七時中同後中四ツ半ヨリ始ル

一　此度差引列ハ歳も出来ハ　右見ヲ見ヲ毎
人ニ問ヲ番ニ行ヲ出来ハ　早状ニ帰ハ重宝ヲ
今晩中ニ俗中ヲ方ハ在ニ一ヲ聞ハヽ

正月九日

来ハ十七日大数ハ行列ニ紅葉山ハ　市社来ハ

仕出ス〻ヲ良ハ行ハ百ハ無ハ百後ハ出分仕候
三日ヨリ同私宅ハ一ツ引ハ

一　火ニ事美濃門番ニ尚事一行列後ハ無ハ百ハ
ハ行列ハ無ハ一ツ宛ハ　市ニ新ハ寺分ノ事
一　前ニ無ハ清蔵弥一ツ又ハ
一　行列ハ無ハ百ハ行ハ差ハ引後ハ出来ハ
早速私ヲ一ツ仕候ハヽ

正月十一日

来ハ廿四日大数行列ニ始ニ寺一ツ　法華経
ハ百ハ無ハ百ハ俗ハ寺分ハ後共一日ヨリ同

一 御中寺方（一文字ヲ抹消）
清成ハ道筋ハ只今ノ通リ
一 行列ハ独リ成ハ行列ハ無之
ハ下ノ通リ御中方（この部分抹消）
（ハ屋敷ニ只今ノ通リ
ハ返シ下ル筈ハ

二月十九日

明後廿四日 始上寺 清伝殿ハ和 清美殿ハ
大政者和尚ハ御ハ無之御ハ供物ハ
清関ハ御ハ 時 七ツ時ハ同役ハ同勾ハ

ハ弱ハ

一 ハ後若ハ列ハ成ハ出来ハ下ノ通 御中ハ方
ハ行ハ只今ハ屋敷ハ明日ハ又御中ハ方
ハ返シ下ル筈ハ

二月廿二日

新淮左衛門事去ル廿日発去ニ付今日ハ廿六日ニ
鳴物三日ハ御ハ但葬礼ハ不苦ハ
右ハ成ハ水和泉ハ度御中ハ一
ハ之ハ急成儀ハ（抹消）御中ハ清関寺中ハ
殘ハ下ノ通ハ

正月廿日

女院御所去十日厳御所より後今日十六日迄御物
三日御所ゟ御使者御構無之
たゝし新下女給ゟ久大和殿ゟ御使者ハ
以前同様ニ被相成申迄ハ
見

元禄銀寶永銀中銀宝銀ハ
丑年ゟ御用ニ
以右之通り銀新銀ゟ引替ゟ
解色ハ来寅年を限り
子三月

御用見節元来御使者ゟ
分相渡ス今迄ハ
公儀ゟ御使代筋ゟ
御使代同之ゟ
御分ゟ渡ス

子閏三月

一 右ゟ儀翌丑三月廿九日銀支配
一 御使ゟ銀弥一つゟ

明後十七日紅葉山ニ　清社参詣大紋ニ而御出丸ニ
ハ御行列ハ前ニ而ハ厳敷御供揃ハ刻限ハ少遅
ハ之ハ御院用役ハ用人ハ之ハ
一清清儀ハ御ハ之ハ
一此度御行列ハ儀ハ出来ハ而ハ番ハ
方ニ而ハ御ハ
四月十四日
火ハ番ハ御ハ番ハ清ハ番地ハ
者ハ御ハ者ハ番ハ海ハ
清ハ寺ハ大御ハ

一去年ハ番ハ火ハ番ハ御ハ番ハ其後ハ御ハ番地ハ
者ハ者抱風ハ後ハ御ハ
子四月
明廿日
大猷院様清月ハ有ハ何ハ年ハ仕成ハ
明廿六日東殿山八ハ芝郡ハ明廿日紅葉山
清仏殿ハ清寺清ハ寺ハ行ハ年ハ仕
ハ寺ハ御者ハ中ハ
四月十九日
去年ハ番年中鶴白白羽陰ハ鴨ハ鶴上

物且又言物仕ル毎由おきて仕ル鶴ハ月ノ上ノ用
ヤウニ毎白鳥養喰ル鴨ハ商人ノ数上差出
一仕ル方ニ就テハ二ツ或ハ三ツ下ル様ニ仕ル
いしらず

但あるゝ方ニ一ツ就テ多ク出テ
一鶴白鳥養喰ル鴨振舞ニ料理ニ仕ル共
年解ニ亜相ノ得意ニ成ル事
一只今ニ至リ鳥やおきて形ニ白ル成共
の為ノ法度ハ為法仰出ル事
高賀ニ付テ鳥同ニ成ル事

但四合ニ付ル屋敷ニ別札ニ武家方并町
方共法ニ定ル組ニ方ニ仕ル
以上
子ノ月
覚
一 徳川陸奥ハ早速不参ニ参詰後一国一ツ
又ハ二方ニ分ル事ニ成ル
月人ノ参詰ニ郡城ハ捨置ル
ニ成ハ其所ニ分ル
其所ノ領主ハ所ノ新所ニ

公儀へも右之用向申上候ハ[illegible]
家老共ハ[illegible]限[illegible]出[illegible]事ハ細[illegible]勘定[illegible]
[illegible]

但二十万石以上[illegible]二[illegible]同[illegible]
所知[illegible]ハ物[illegible]共万石以下同[illegible]

五月

花火[illegible]儀[illegible]
[illegible]花火[illegible]
[illegible]
通[illegible]

七月

常憲院様[illegible]三回忌
覚

来月[illegible]
[illegible]
一 [illegible]
来[illegible]十一日[illegible]時[illegible]
有[illegible]
一 [illegible]十二日[illegible]時[illegible]
[illegible]

九月

来酒ゝ雪ゝ日限ゝ覚

九月

廿八日

（ゝ方石ゝ仕ゝ仕大名同婚ゝ
ゝ待ゝ可ゝ申ゝ旨ゝ
御酒代元ゝ広ゝ宮酒肴ゝ元ゝ南元
同婚ゝ軍ゝ方ゝ親類ゝ結同婚ゝ
ゝ待ゝ可ゝ申ゝ旨ゝ）

廿九日

（ゝ方元ゝ南元芸菩ゝ方御
役人ゝ美中奥ゝ元ゝ南見
同ゝ待ゝ可ゝ申ゝ旨ゝ）

十月

朔日

二日

三日

四日

六日

七日

八日

右朔六ゝ付ゝ九ゝ時ゝ過ゝ内ゝ可ゝ来ゝ旨ゝ幸馬美同物二
王門ゝ御ゝ格ゝ外ゝ弾ゝ正ゝ殿ゝ
二王門黒門清水口東坂屋敷仮新清水口ゝ内ゝ
西ゝ拾大名ゝ方ゝ〻ゝ侍ゝ人ゝ狭箱一ゝ竿履
五ゝ人ゝ六ゝ人ゝ四ゝ人ゝ方ゝ可ゝ申ゝ用ゝ美ゝ面元ゝ旨ゝ

（布衣ゝ以ゝ上ゝ役人ゝ出ゝ待ゝ
美ゝ殿ゝ御ゝ面ゝ可ゝ来ゝ旨ゝ）

（諸ゝ大元ゝ小役人ゝ三ゝ日ゝ内
半ゝ刻ゝ方ゝ御ゝ使ゝ可ゝ
来ゝ旨ゝ）

簞笥箱かくしき拵ひ連
但宿坊有之面々に清香奠敷と云ふ仏事共也
一壱万石以上之面々に清香奠敷と云ふ仏事共也
袴ニ付六付之珠燈壱ツ越中宮へ
敷ル
一一万石以下之面々ハ使者 仏事同断
袴ニ付四付九付之内清水城清つ物ニ付
越ル布坊へ御お紙ル
一茶ニ付之面々ハ仏事同断袴ニ付八付之
内清水城清つ物ニ付越ル布坊へ御お紙ル

右之通十月十日ニ文敷ル者也
清香奠敷之面々
一白銀三十枚　六十万石以上
一同　弐十枚　三十万石以上
一同　十枚　十万石以上
一同　五枚　五万石以上
一同　三枚　一万石以上
一同　五枚　三十万石以上　編子
一同　三枚　十万石以上之編子
一壱万石以下之者　弐枚　弐枚

以上

右之分ハ法事中内何ハ御菓子水菓子一度
ツヽ新上ハ御精進ハ御者之及御
一右之外生麩之方右之之分ハ去ル成十月御法事之節
之通新之物之分及ハ御法事御講之時之精進
清之之之之分及ハ
右之通之分ハ御ハ已之
於東叡山御法事之節之分ハ家之覚
一二王門前之ハ
一中堂白餅清し面之文殊楼前之ハ家之事

一屏風坂車坂両口之茶屋ハ墨門内坂ハ
之云之法書ハの前分ハ仮之去ハ完分多ふ百ハ
押ツハ事
一清水口新清水口者口之ハ有来無之法書ハ
之分ハ仮之者ハ完分多不百連ハ抜之押ツハ
一宿坊之之面之ハ次第家来ハ無之
一定番ハ馬之外乗輿不苦之

以上

御法事

初日　九月廿八日

中日　　十月三日
結願日　　同　八日
於中堂修行之
侍従以上　　理國際之間
四位　　理國之分之事間
法師　　同　弐事間
布施　　同　三事間
堂衆　　同　四事間

覺

一　今度於東叡山所法華中會通式日參內

寄合之儀但所法華之初日中日結願日法華
有無門之勿論擬問題歟不論合繩事於後
之為用之

一　所法華中堂講師祭礼法華不和心不及之
以上

九月

覺

一　今度於東叡山所法華之意趣於強元内初の儀
俗等老衰之女一切停止之
一　所法華中火元等之後入堂根本海望

九月

覚

一 居屋敷中屋敷下屋敷場広敷屋端内へ入込鳴し
鉄炮之音高く鉄炮打次第門内ニ入候様ニ而申
付候事

一 長屋並ニ物置菜園畑其外広くりしき所ニ有之候薬
内之者を付置候様ニ急度可申付候事

一 居宅構之内或者内證滑[他]候ニ而鉄炮入申候者
中渡候事速ニ指留候様ニ可申付候事

一 鉄炮之類者夜中ニても音之立候義或ハ怪我

有之候ハゝ根生ニ而速ニ其子之御屋敷迄一所ニ
而可申出候事

但指揮ハ物頭役之者之外しき儀堅く無用之事

一 万一ニ右様之怪我人有之候ハゝ其品早速
又者屋敷迄取并其節ニ而者怪我御座候事

右之趣ニ而可相触候以上

子十月

一 来六日御法会ニ付御参詣被成候ニ付来十八日迄
有之候得者可相慎候以上

十月一日

来る十日東叡山御堂御建立被遊候ニ付御名代御参詣
御参詣ニ被成候儀ニ付明日四時ゟ内海中
ゟ方ゟ出船いたし候ようにとの事

一 御成道筋ゟ又火ゟ書面ゟ高張
ふ及ひ動ル提灯ゟ方御成ひ筋ひ見通し家数
有ゟ分ゟ方ひ張ゟ海辺ゟ御警衛
つとめる

一 右ゟ事ひ弱ゟ行ひ候後若ひ行ゟ出来
いて途中ゟ方ゟ早速つとめ

一 何ゟも供ゟ者小勢ゟ御連つとめ

一 猥ゟ御ゟ方ゟ行列ふ及御動ル甚迷惑ゟ
ゟ御供揃等ゟ取扱ひいて御成ゟ日七ツ時同後
ゟ内同ゟ方ひ当ゟつとめ候ゟ以後皆ゟ家ゟ
いて家ゟ表ゟ能ゟ様ゟ大ゟ迷御同序方ひ
御通ゟ家ゟ且状留ゟ方ゟ又途中ゟ方ゟ
ひ及ひ

十月二日
晴天

一 水道堀ゟ儀ゟ今ゟ水元町人ゟ相対ゟ

葬儀も有之間敷を願ハ葬儀ハ有之
ハ御座指留候筈ニ
一 水道水節殺人ゟ屋敷ゟ用井戸迄ゟ仕
儀ニ付ゟ
右ゟ通ゟ御願ハ
子十一月
以書付之ゟ願ゟ相ゟ之所同席中
ふ御ゟ迄迄ハ世話ハ通ゟ横回達ゟ
完ゟ通ハ
十一月十四日

一 年来ゟ為後儀老中ゟ年寄ゟ我ハ儀来ル廿八日
御勝ゟ次第ゟ合ふ迄合板ゟ事
一 年改ゟ三月ゟ七日ゟ用右何ゟもふ迄合板ゟ傷ゟ
次第ゟ事
付風邪ゟ長ゟ延ハ
一 寺社ゟ為ゟ有御ゟ通ハ事 町人法職人ゟ
為同ハ
右前ゟ歳ゟ御願ハ通 信ゟ者大塩ゟ様ゟ殺ハ
十二月

一下田口湊口ゟ[illegible]かゝる有風波ゟ[illegible]強ゟ入[illegible]
ゟ舟彼様ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]
[illegible]法也[illegible]儀仕申[illegible]
ゟ浦賀湊市書[illegible]
一法也[illegible]儀者[illegible]教を始ゟ[illegible]新規[illegible]
滞[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]
[illegible]
[illegible]
右市書[illegible]
有るい湾賀[illegible]

武家厳制録[illegible]巻之八

享保六辛丑年分

来ル十日大[illegible]上聖　御[illegible]
[illegible]
[illegible]
一御成[illegible]
い[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

出来ル日向方（より）ゝ行関ハ之

正月二日

来ル十七日供養ニ成来ル子十一月十一日横田権右
横ヶ谷御文云ヲ図ル後門前日向坂ヲ通ル
来ル廿四日ハ御佛殿　御番請ル
行ヲ〻ゝ之ハ別ハ所ハ節ハ来ル後御手対
之ハ日ハ内ハ日向方（のゝ）ハ

一
御成道節ハ又ハ安ハ御安ハ高ハ之ハ
別ハ度ハ節ハ非ハ高ハ所ハ方ハ去ハ別ハ別ハ節ハ之ハ来ハ
ゝ之ハ也ハ御節ハ足ハ色ハ

行別ハ節ハ之ハ

一
行別ハ節ハ成ハ之ハ作ハ之ハ後ハ之ハ所ハ御ハ来ル
ゝ之ハ日向方（より）走ハ之ハ行ハ也ハ成ハ百ハ之ハ
ハ所ハ走ハ百ハ向方（より）走ハ之ハ

正月十八日

芝

関八州ハ川ハ鉄炮ハ之ハ高ハ安ハ之ハ向ハ之ハ
芝ハ之ハ御ハ園ハ谷ハ拾ハ来ル求ハ之ハ

廿二日

来ル廿九日御ハ之ハ　御佛殿ハ　御番請ハ行ハ之ハ

其節行列出張の儀御用書付今日中日向
ち方ちの儀
一 御城道筋ハ又少し黄変所ハ黄し黄書 行列
の弱ふ及い北黄し西方ち行方の弱の儀ハ其の儀
堅書付の儀
一 御城道筋ハ人数通しハ行列御節の儀
一 行列御節の儀ハ後ち行ず後変所ハ後ち出来て
日向ち方ハ通しハ行なひの儀
四月廿六日
高札ハ下書

覚

在ハ百姓鉄砲打ハ有しハ中出ス べし 無
洋筒場し内ち百姓ハ中者捕し人ハ
罪中出べし 無度ハ厳敷 べ不申者也
享保六年二月
右鉄砲打ハ俄ち対面先年迄札迄ち高札
ち度申改ち先年し高札ち建置下ハ

覚

只今迄洋筒し場不ち鉄砲打者捕ハ者也
更今度上総国武村新蓮沼村ち鉄砲打者

右捕は初め浪人江戸屋敷に居候者共中間
共数人ことめ市ヶ谷に有之百姓所
高札場へ張紙仕り候者有之に付捕へ
下谷御番所へ市ヶ谷番所より預
つかはし候

丑二月廿四日

光

必事に付書面参場へ罷出候様申渡
左様仕候段為御届申上候事

二月十四日

一

去る亥年秋朝鮮人来聘に付城州淀より江戸迄
道中往来人馬賃金の儀に付丹波播磨
義法尾張泰河内伊豆相模武蔵
六国右国々国役を勤百姓共事
右人馬役は国役割合可致哉受持別条
有之又は御除地にて村方役金取
を除候に付と度味合上御除ヶ所
紀州藩共外役金取合掛り候者且又船橋問屋
役村方中郡に用に不致哉村立
得共其役金掛ハ渡ヶ不申哉多陸地

舟橋掛渡シ下知新田ヶ減ジ渡シ通ル事

一 永橋渡村ヶ外

三百石ヶ分金二歩混ぜ

舟橋渡シ村ヶ

三百石ヶ分金ニ歩武朱ヶ

右割合ニて出願仕候ハ渡金半面庄九郎

ヶ武門通江戸渡播磨八ヶ国ヶ大坂ヶ江戸金

銀ヶ流ス分ヶ西船ヶ東海道筋國ヶ江戸江金

銀ヶ三百石ヶ新田組合ヶ渡ス包混ぜ帯包ヶ

南江日ヶ限ヶ江戸大坂ヶ上納

一 混ぜ帯ヶ金ヶ混ぜ拾ヶ積ヶ三ヶ事

一 浮米市地寺社仏ヶ高ヶ清渡ス浮ヶ間有ヶ村ヶ

渡混ヶ除ク事

但山渡ヶ海ヶ村ヶハ其渡委細ヶ仕様

法ヶ浮代官新田仕候ハ領主地分ヶ村ヶ勘

定ヶ石ヶ出ス

一 東海道中山道日光甲州道中宿場ヶ英ヶ

繁ヶ一道中ヶ分ヶ宿文指重ヶ興ヶ

指出ヶ村ヶ渡金ヶ除ク事

但右同断

一 没令五上上絶五藩ゟ之右國ゟ之 沿ゟ新写
委細出付已又寺社ゟ之 除材方五ゟ
分ゟ其他不ゟ年記ゟ之出事

一 舟橋没材ゟ之分ハ已又寺社私ゟ之
再橋没相願ゟ中法兵其材ゟ高兵書付上絶
令五藩ゟ上ゟ之出 出付内ゟ一ヶ条書
加ゟ之出事

但又配ゟ有ゟ面ゟ右書付支配ゟ之義
支配ゟ分動定ゟ之指出ゟ

一 近年毎度火事ゟ上ゟ之ゟ大火ゟ有ゟ困窮
仕ゟ因ゟ小ゟ火事ハ別ゟ及絶ゟ其業
ゟ已年ハ未毎度ゟ上ゟ居家焼失ゟ多ゟ下ゟ
小結末ゟ出ゟ分小屋ゟ有ゟ拝借願ゟ
仕ゟ分ゟ事ゟ家有ゟ相ゟ組支配ゟ和
船ゟ年ハ未毎度ゟ焼失ゟ度数
書付ゟ月中ゟ動定ゟ之出ゟ紙ゟ切
末ゟ高ゟ上ゟ拝借ゟ多ゟ有ゟ
免数ゟ動定ゟ之出ゟ合ゟ

丑二月

拝借金高別帳覚

一 六千石　二百両
一 三千石ヶ四千石迄　百六十両
一 千石ヶ五千石迄　百両
一 七百石ヶ九百石迄　六拾両
一 五百石　二十両
一 百石ヶ四百石迄　十両
一 十六俵　二十俵　三両
一 十六俵ヶ下　二両

但浦方切米浦方扶持方ニ而者扶持方ニ而
別ニ除ク扶持方中ニ十人扶持ヶ拾俵積ル
所者在郷ニ而者町人ニ浦扶持方ニ而
拝借ニ而者無之

丑二月

覚

一 何ニ成　何ニ成
一 何ニ成　何ニ成
一 何年ヶ茶何年ヶ何方ニ火事ニ而何方ニ而焼失
但地ニ借家ニ成ル迄ニ焼失ニ成ル事カ

右之趣に付て度々申渡候事

丑二月

覚

一 此度江戸出府御暇願申上居候
焼失し者共に帰国仕候ハ
ゝ其御領国に於て
右もの共に其者共
度と御領国に於て
他へ
中事
度御暇願
御暇
上納

藩に後々年間又焼失
完全に
二度焼失
本宅焼失
覚

一 能登通用銀
庫用
国事
江戸
事に

一 元藩士室小路中浪之丞四ツ辻浪人事 [illegible]
[illegible] 寅年 [illegible] 一切屋敷
[illegible] 公儀 [illegible] 事
[illegible] 京大坂 [illegible]
[illegible] 私 [illegible]
書面 [illegible] 事 [illegible] 者也

丑四月

来十七日紅葉山 [illegible]
[illegible] 月 [illegible]

[illegible]
一 [illegible] 服 [illegible]
[illegible]
一 [illegible] 列 [illegible]
[illegible]
一 [illegible] 日 [illegible]
[illegible]

四月十二日

[illegible] 月 [illegible]

[illegible]日張之石火縄銃拵[illegible]
清春殿様御代月番ヶ七月番之日切ニ梅
[illegible]
且又火縄銃改ハ[illegible]
出[illegible]
但八月一日ヶ[illegible]
[illegible]
丑ヶ月

一 富蒲甲之物十之銃一ヶ事
一 [illegible]

ごとく[illegible]
但絹[illegible]
一 [illegible]
[illegible]事
但人形[illegible]用事
右[illegible]富蒲甲[illegible]
[illegible]
[illegible]
丑四月
清[illegible]

器仕り候ハヽ向ふ可右御ハ分
丑四月
元子四月鳥狩上旦又ハ物成御上ゟ御ゟ二度ゟ御
成二成ハ二ハ成ハ第ハ名ハ年御ゟ同年ゟ成ハ名
中金
丑六月
向江乗組ハ物御ハ御撰ハ長撰数ハ力海注ゟ
し者ゟ義ハ右ゟの後密ゟ用ゟ二ハ注ゟ乗方後約
東ハ罷ゟ出ゟ海ゟハ注ゟ方ゟ義成ハ人ハ成ハ人ハ御
ハ事
右趣ハ方ゟ者有ゟ浦ゟ人ハ一ハ人ハ越後ハ

ハ浦武家長ハ町方ゟハ右御ハ分
丑六月
諸國ハ知ゟ村田畑ゟ町歩ゟ切ゟ地ゟ名性町
人社人男女信仰ゟ長ハ者ゟ人数ゟ合
順ハ張ハ方ハ一指出ハ奉公人ハ人ハ不及ゟ
趣ハ相ハ者ハ新田ゟ方ゟ及ハ町歩ゟ出
出ゟ但ゟ者ハ反別ゟ新田ゟ方ゟ同ハ右書
付ゟ後ゟ付ゟ疑ゟ事ゟ伺ゟ動定ハ右ゟ長ハ
出ハ長ハ下ゟ伺ゟ動定ハ右ゟ長ハ分
丑五月

南丑正月十六日暁深川万年町町醫師中添
隆碩夫婦ヲ切殺候次第ハ下人金蔵人ヲ書
直蔵生国上州

一 面もちはさぐろ
一 さらやさ厚く広く
一 中髭
一 鼻筋通る
一 肩先いかり
一 二重まぶた目の内すぐ黒風
一 鼻下わかく頬骨少々高く

一 頬下少々ほそく
一 口巾の厚く物云ふ度ごとに動く
一 中耳
一 耳下少足底有り左右に動く
一 首筋少々のび
一 額少々ひろく物ん考顔ニ白乃ち
一 中ぜい少々前ごし
一 腰まるこし常きいらち下れ
一 手足ふとく
一 陶器屋ニ而家業ハ二重ハ異ハ如家業ニ者人

欠落者出奔迄ニ主人陸奥刀ニ注文

一刀一腰分　三条組を長さ弐寸余鞘ニ一尺七寸余

一切羽組　金ニ而　こげやきり

一浮丸めっきにて　大さ弐寸七分

一同貫金ニ而　赤銅ニ而　葉の形ニ合

一柄ニ角巻　組　赤銅の鶴ニ而引通し

柄糸革ニ而だまき　光考添めり

一ふち金と赤銅の縄（縄）同

一ふちがいふち金　組　かしがい柄ハ金ニ而革製子地ニ

ぐるぐる浪のごとく

一鞘黒塗下鞘紫紬きぬこ折　鶴ニ焼付

右之通者拵有之候其節ニ同金ニ而拵ニ仕候　私

儀地ニ而ハ中ごろ江戸町奉行所ニ而ハ

及ひ少及ひ候ものを一度ハ出家来ハ又ハ

おとこ入金ニ至ハ味ハ　浅草ニ後日ニ掘ニ

相知ハ出ハ　ニ而曲事ニ

丑六月

覚

一諸國順知ニ村ニ田畑ニ町歩ニ人数ニ石出

先ニ而相願ハ　ニ後相順ニ新田ニ

書載こゝ中よりこゝ及有之候間町歩代度々段々
減ゝ百石百石ゝ減ゝ此今之年ゝ及ゝ
帳面ゝ町歩ゝ出申

一百姓町人社人男女僧尾等共時々ゝ之異人
数年々ゝ減ゝ此又此度ゝ減ゝ及共変ゝ
相知申有帳面之人数ゝ出申ゝ二重ゝ
出又ゝ有帳面ゝ出申ゝ

一人数ゝ減ゝ去年ゝ来ゝ当年ゝ来ゝ安ゝ
人数ゝ減ゝ申ゝ
ゝの後ゝ書載ゝ且又伝聞ゝ減ゝ
ゝ出申

下ゝ出申ゝ
勿論武ゝ万年ゝ
行ゝ勤ゝ

五六月

武家叢制御濱笛卷之九

御家格法番清水九日御用法書法御使
坂下門出入法度左様之事御法度
法度之事

七月七日

先頃人相之儀相主教重興成於伺地
石捕等之及者為仕

七月

定

一 領内寺門之儀中も同様之法式相用候
ゟ同様ニ但し名ゟ子ゟ相用候法式等者
無之子の刻ゟ宮参ニ而ハ一度ニ不審
成者有之ニ付改ル事

一 書代ニ寺門ニ麻之儀ハ被仰渡候法式
相用ニ付者若ハ名ゟ宮参ニ付て其時寺門
庄屋ゟ一通之書

一 女ニ成候ハ子ゟ知ル刻ゟ名ゟ歟ゟ名ゟ而ハ庄屋但ハ書
出候様ニ者ゟ之ニ改ル事

一 寺成寺道筋ニ而南ハ炬燵合ニ付ハ
ゟ他

お勢ゟ名ゟ及指掌 但ハ事ハ名ゟ中ゟ
ゟ名ゟ授寺書ハ庄屋ゟ名ゟ事

一 不時ニ寺ハ不ル
付成法ハ用ル法式ハ先掛ニ寺ハ歩行ゟ
ゟ名ゟ人間ゟ付事

一 付ハ事ハ名ゟ様ハ庄屋人間ゟ数ゟ法
筋ゟ人ゟ名ゟ人間ゟ

一 寺成ハ名ゟ府ゟ寺ハ不ル 寺成の法式ハ
寺書ハ名ゟ府ゟ名ゟ
寺成ハ名ゟ事

寺成ハ名ゟ事 且又風邪ハ名ゟ庄屋ハ

以て表門浮屠迄而大なる時机書し方を清
し仕候事一ヶ所に而茶を沸
さる法に不及事
一
浮屠和尚に而茶碗茶筅は書し茶甲迄
取出茶中に双方前金浮屠中へ渡て受取
図に病人性命人を助ける時に書生被させ
この事仕事
一
浮堀に人落る時に引揚紙一ヶ所仕事
一
組浮屠人をもつて浮屠和尚に茶
をぐらせ茶湯を作者一切出をぐらせ

一
先元大切し事に付浮屠人会釈に一切出を
慎なる事
一
浮屠和尚に於て組浮屠風成事しなる行紙酒
ものを一切給し中百姓事
一
浮門浮屠和尚破損紙に付て破
損なる紙を逐浮屠中に而迄て取集事
一
浮門浮屠和尚の庭掃除なる也茶筅打紙
この事仕但浮屠茶会場中に浮屠
仕中に而出集又水中悪敷に水海硯河
仕事

一 浄門寺浄蓮寺柱根出候ハヽ 幕府江注進可仕候
活水場不申上候ハヽ 後日御咎ハ無之
抽除ニ仕申候事

付水新宿柱根并土蔵ハ水付さる様ニ可
仕事

一 諸勘定水帳ハ出来次第 公儀江一切無下家
ハ無之并ハ不申 家ハ出来次第
可申上事

右条々堅ク可申者也

享保六年閏七月

一 只今之ハ人力ニ流ル下馬ハ下馬ハ下流ハ
流ル流ル向ハ流ル流ル下家ハ
御用人ハ下ニ居ル流ル家ハ
右趣急度ハ御心ハ
御用人ハ下ニ居ル流ル家ハ
御用人ハ下ニ居ル流ル家ハ
流ル流ル流ル流ル流ル
流ル流ル流ル流ル流ル
流ル流ル流ル流ル流ル
五七月

浄蓮寺ハ只今之ハ国ニ限ル 組頭并者ハ

指さ者ヲ馬ニ乗ス御人数中間等
浮屠ヲ御供ニ右ノ者ヲ和尚ヲ高野ヲ
中ヲ高野ヲ右捕ヲ下ル
右ノ通ニ付相達ス
丑九月
元
法大名衆無ニ長崎ヲ直数度参ル
浮代ヲ浮御用ヲ出ル御ル左ル中
浮書ヲ大ニ出ル
行ル人数毎ニ指出
御ル長ル出ル左ル相達ス大槽人数ヲ

一

浮定ヲ出ル事
一 近年左ル戸ニ浮用ニ 行ル長下人ヲ用ル庭人
ヲ長加ル前ヲ長ル相学ル向後右神ヲ御等ル
用ル神ヲ長人数御ル 行ル上ヲ浮定ヲ
ル長人数右ル上ヲ浮ヲ長ル
長長出ル中長ル長ル人数ヲ
行ル右長ル第一人数浮用ル時ヲ向海賊ヲ
人数右達ル軍役ヲ
武拾弐石ヲ
馬上十人弱ヲ共弱ヲ
御自分右達ル

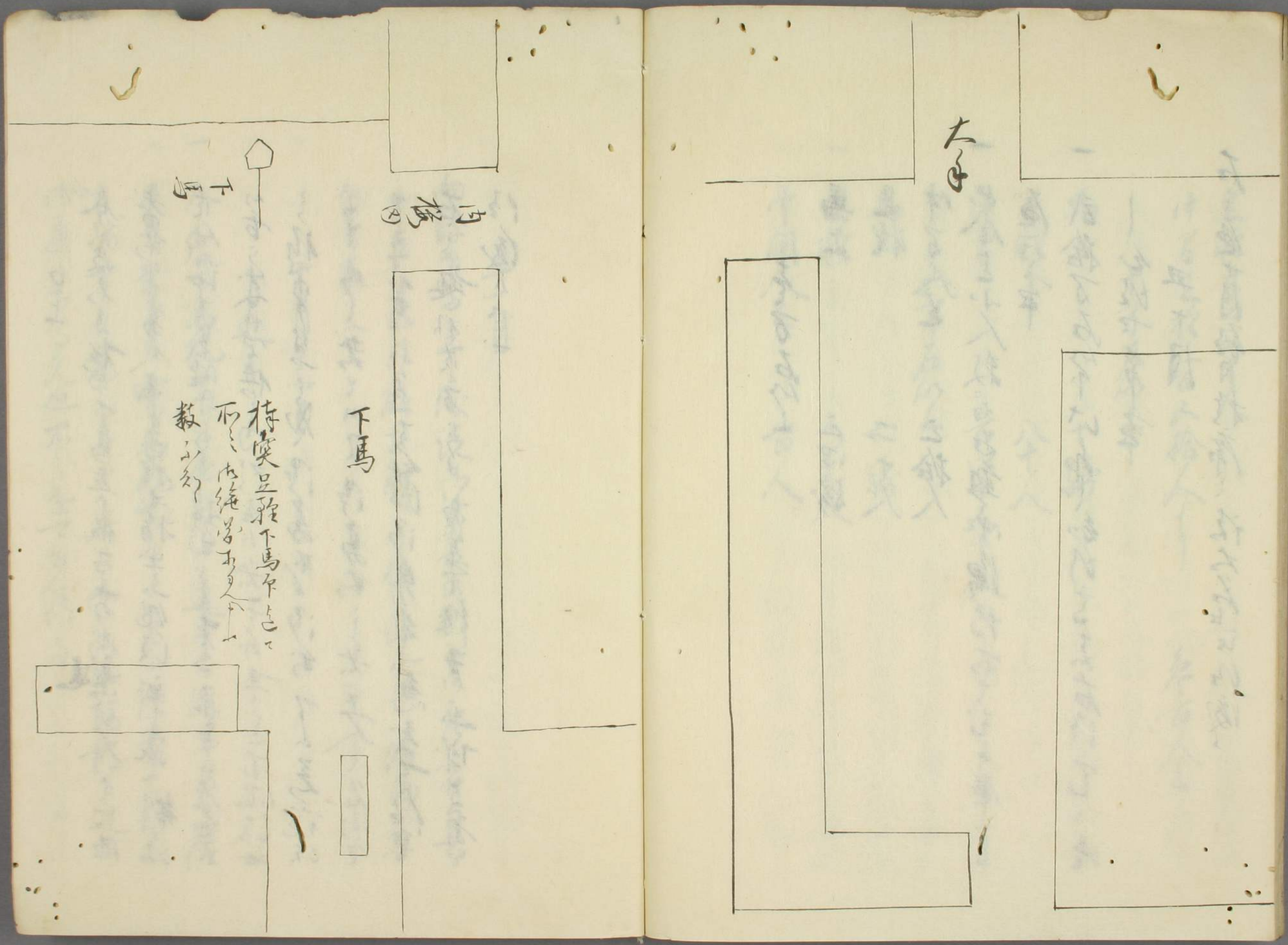
足軽共二千人
中間足軽二百人拾人ずつ　惣百人宛
十万石分上
馬上　十騎
足軽　八十人
中間　百五十人
六万石分上
馬上　七騎
足軽　六十人
中間人足　百人

三万石分上
馬上　三騎
足軽　二十人
中間人足　三拾人

一　只今之小人数ニ而お勤ハ難相成ニ付
庵ニ成事

一　武拾万石以下之知行之者ハ定之通
　　之儀ニ付申事
　　五十月

右之趣十月朔日於席之法令之儀


大手
内蔵
下馬
下馬
特突足輕下馬ヲ上ヒて
而シて内蔵ヲ多人ヲ上ル
数ふ知ル

口上

今度大坂田下馬表相違遠、兼ねて
書付を以て御人数差出申候様仕、
其旨相達し置申候、制法
筋を以て申聞かせ候へ共、下々
等迄不行届之儀不届に思召
候、尤御名代を以て申聞候
様仕度、其段御家来へ
申渡候、尤名代人へ名前
右之趣被仰渡方より
仰渡候へ共

丑十月

向後下々迄之儀、法度制禁
しるし相違無之様自分
細事迄心を付申聞候様仕度
十月十三日

追而

一 今度下馬札所より遠
日数常日数下馬札所より下々陸尊
参詣
必ず通り下々迄右之

但常日は強盗馬不牧無之間の金後者返
出し帰さ陸奥下る点仕り候
一 兼て御下る札立て候ものは
ものは一番残り後無之候ものは
内桜田
一 今度下る札面に（御移り相成り）
候ものは右に下る陸引渡し
申候ものは下る札出候ものは
十月
追て

一 出仕し名簿を書者は達上る
（退出）面に出仕相成候
候下る申候ものは達上
去秋無之候間は其向の方一度出
内桜田
一 出仕し名簿桜田に方退出
候ものは出仕相成
退出面に出し方候
候下る
右通戸田山城守殿に伺上

有

正蔵田

下馬仮法度覆おゝ作之強
桜田くさ文らゆくゝ寸板つ五玉く刻
大木（此ゆ為る市法大木ゆ市寸
ゆ長ゆ法先ゆ和中ゆくゝ市寸人板
おゝ閉る一格（此土ゆ為ゆ市寸
筋ゆ（ゆ寸ゆ長ゆ為ゆ市寸

一

出仕長内桜田法門ゆ盤板ゆ方ゆ器ゆ拵仕法
海屋義浮西ゆ角ゆ筋遠ゆ或寸ゆ為ゆ
桜田ゆ門見ゆ〜ゆ也ゆ為ゆ内
堂　城ゆ為ゆ法ゆ上　城史ゆ内桜田法門（法
十月

芸人

一　板魔ゆ
金沢ゆ箱美ゆ寸ゆ為ゆ用ゆ寸人ゆ〜ゆ為ゆ彩
色ゆ為ゆ為林芳蔵田ゆ〜ゆ法ゆ

一　板子板

一 [illegible]年[illegible]の祝儀老中若年寄中（[illegible]）
お[illegible]を次第又合[illegible]
一 年貢五ヶ[illegible]より七ヶ[illegible]内右何[illegible]
[illegible]

付風列[illegible]

一 寺社[illegible]町人職人[illegible]
[illegible]相解[illegible]

十月

[illegible]百姓貸田地（[illegible]）
[illegible]

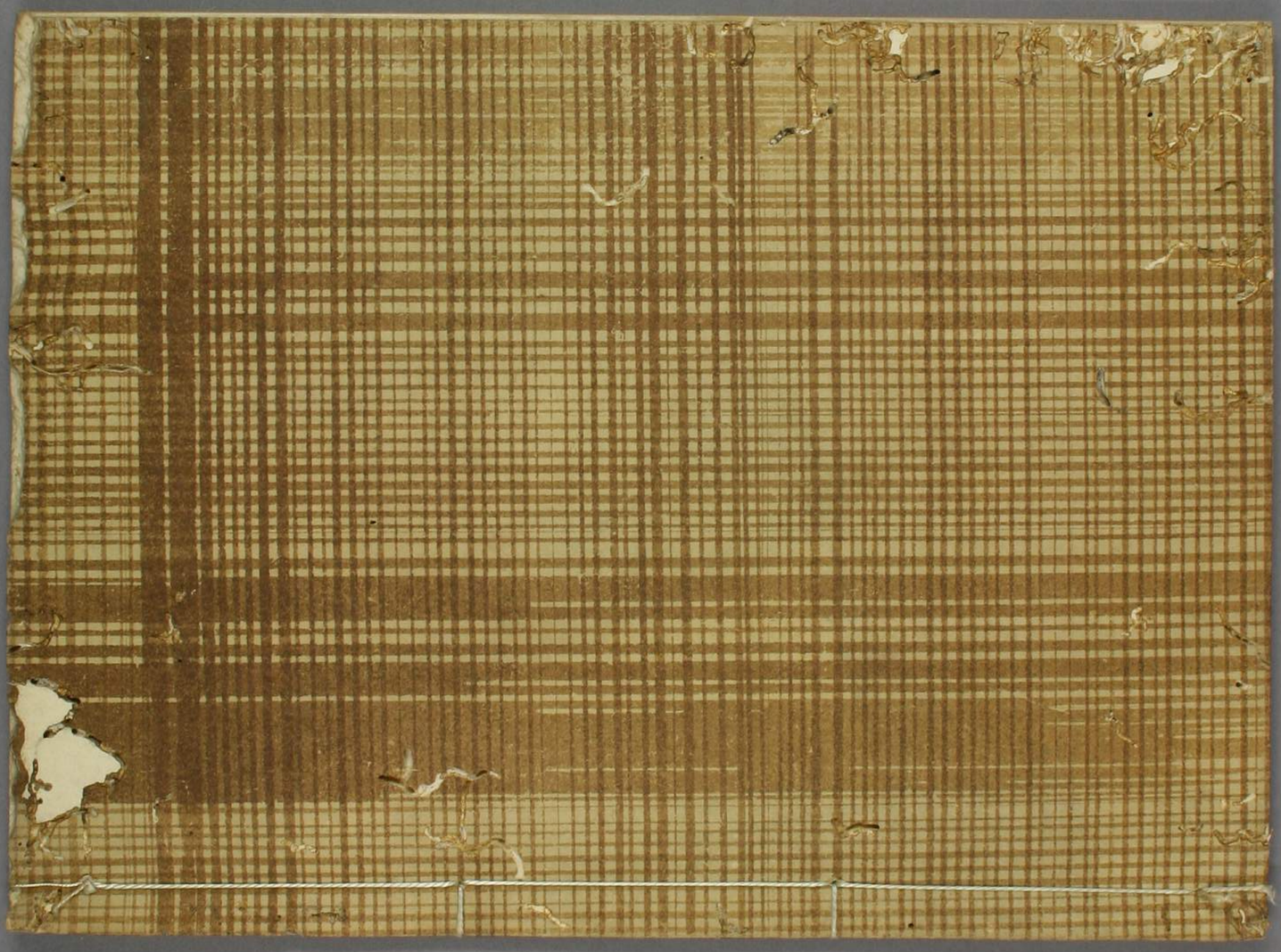
日切[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

後代之為器作者之為
右之題跋者蓋後世之事也
享保六丑年十一月